

水環境にやさしい台所ストレーナーの開発(その2)

大阪市大生活科学 北浦かほる ○山崎かおる 井谷佐織 小笠原栄 小谷和子
大阪立環境科学研究所 鶴保謙四郎 土永恒弥

(目的) 本研究では(その1)で開発、試作した浅型ストレーナーの実用上の使い勝手をチェックするために、集合住宅居住者を対象に浅型ストレーナーのモニター調査を実施し、実用上の問題点を検討するとともに、水環境に対するユーザーの意識も併せて調査することで、意識と行動の関係を明らかにすることを目指した。

(方法) (その1)と同じ4カ所の集合住宅でまず、現状の深型ストレーナーの使用状況、台所シンクにおけるゴミ処理方法についての調査Ⅰを実施した。その後浅型ストレーナーを配布して1週間使用してもらった後、浅型ストレーナーの使用感及び台所シンクにおけるゴミ処理方法の変化の有無についての調査Ⅱを実施した。同時に水環境に対する意識も調査し、その結果と実際のストレーナーの扱い方との関係を調べた。

(結果及び考察) アンケート回答者は延べ413人で、家庭で調理している人に限定したため、ほとんどが女性であった。年齢構成は、大半が公営住宅であったため、若年層と中年層が多かった。対象家庭の平均世帯人数は約3.3人であった。浅型ストレーナーは深型よりも良いとの評価が得られた。浅型では「掃除のしやすさ」、「ヌメリのつきにくさ」が特に良く評価されたが、浅型の深さの程度についてはさらに検討の余地を残した。継続使用については、「使いたい」と答えた人が多く、実用面でも評価された。また、水環境問題への関心度が高かった反面、具体的な配慮の仕方がわからない人も多かった。最後に、キッチンバス工業会、(株)日立伸材及び関西電力の御援助と御協力、大阪市都市整備局・大阪府建築部・兵庫県都市住宅部及び住宅供給公社の多大な御協力があったことを記し深謝する。